

黒川能の里王祇会館 - 館内説明看板（水焰の能）

水焰の能は、水上に特別に建てられ、自立型の焚き火で照らされた舞台で行われる独特の能です。1996年のくしびき創立30周年を記念して創立され、毎年7月の最終土曜日に行われ、地元の夏の大祭典となっています。くしびきの特別能は、地域の農業と文化、そして生命の源であると信じられている水と、文化の源であると信じられている火との人々の関係を祝うものです。

地元では、他にも薪能が上演されます。薪能は数百年の歴史があり、奈良県の興福寺にルーツを持ちます。室町時代（1336～1573）に始まり、明治時代（1868～1912）まで春を迎える宗教行事として続いていました。黒川能とは、一般的に春日神社で祀られている神々の儀式として行われる屋内公演のことです。これらの公演は神社の公式式典であったためと、交通手段が限られていた為当初は神社の関係者に限定され、一般の人々は見ることができませんでした。

今日、黒川能は野外でも上演されています。黒川能は、町の健康と豊饒の祈りとして贈られます。日本を代表する詩人で文芸評論家の馬場あき子（1928-）は、次のように述べています。「黒川能の魅力はその祈りにあります。それは神々に捧げられる演舞です。最高の能は人間の目には提示されませんが、自分の心の中で演じられます。」